

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年5月28日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2010～2012

課題番号：22320124

 研究課題名（和文） エスニック・メディアにおける太平洋戦争と戦後の記憶と記録
 —東アジアと東南アジア

 研究課題名（英文） Memory and record of the Pacific Wars and postwar through ethnic
 Medias: East Asia and Southeast Asia

研究代表者

貴志俊彦（KISHI TOSHIHIKO）

京都大学・地域研究統合情報センター・教授

研究者番号：10259567

研究成果の概要（和文）：この国際共同研究では、日本国内、台湾、韓国などで展開された学術交流によって、今後の関連研究に貢献できる次のような論点を明らかにできた。

（1）エスニック・メディアに掲載された見解を分析することで、太平洋戦争終結による時代性の非連続的側面よりも、社会の環境および観念の連続性をより検出できた。

（2）華人、金門人、日本人、コリアンとも、戦後直後においては、東アジアと東南アジアといった地域を移動する流動性が顕著であったため、時空間横断分析を進め、地域相関型の研究を推進することの重要性が確認された。

（3）エスニック・メディアは、文字資料のみならず、映画、ラジオなど多様な非文字資料の役割が重要であるとともに、集団的、個人的コミュニケーション手段がコミュニティの拠点どうしを結ぶ機能を果たしていることを明らかにできた。

なお、エスニック・メディア・データベースの構築は、引き続き課題として残された。

研究成果の概要（英文）：In this international researching collaboration with Japan, Taiwan, and South Korea, etc., we could clarify the following points to be able to contribute to the related studies.

(1) By analyzing various opinions that had been published in ethnic media before and after the Pacific War, we could point out the continuous of the society environments and social ideas more than the non-continuousness of history.

(2) Overseas Chinese, Jinmen people, Japanese, and Korean were easy and eager to move to the alien areas cross East Asia and Southeast Asia just after the War. Therefore, we confirmed to use the time-spaces analysis and the cross-regional approaches.

(3) Ethnic media was able to clarify the various communication media to communicate each other over regions. So we could make out the importance not only the character materials but also non-literal ones like movies, radio etc. In addition, we could clarify the role of the grouping and personal communications to be carried out the connecting for ethnic communities.

Finally we recognize to construct the ethnic media data base to develop the ethnic media studies as the remaining problem.

交付決定額

（金額単位：円、

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	2,200,000	660,000	2,860,000
2011年度	2,600,000	780,000	3,380,000
2012年度	4,300,000	1,290,000	5,590,000
総計	9,100,000	2,730,000	11,830,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・史学一般

キーワード：エスニック・メディア、音響的記憶、歴史の記録

1. 研究開始当初の背景

本国際共同研究は、研究代表者が主導してきた科研・基盤研究(A)「東アジアにおける外国人の法的地位」など一連の研究課題を通じて着想を得た。この8年に及ぶ共同研究の成果は、端的に言えば、下記のような結論に至ったことにある。すなわち、戦前の東アジアにおいては、属地的、属人的な法空間が、都市を中核とした地域ごとに重層的・多元的に重なりあって複雑に構成されており、また、同じ法的空間においても、外国人じたいの国籍、民族、職業などの諸要件によって、各地の法の適用のあり方が異なっていたのである。

こうした外国人をとりまく制度の多様性は、同時にエスニック・コミュニティが、政権あるいは統治者に対して、さまざまな選択肢を持ちながら対応してきたことを予見させた。いわば統治者＝権力の側から「外国人」をめぐる法や制度を検証してきたのに対して、この共同研究は、エスニック・コミュニティの視座にたつて、彼らが発行していたエスニック・メディアを読み解くことで、その自律性を検証すると同時に、権力への依存など生きるための多様な戦略度を検討することを課題とした。

対象とした時期は、20世紀の東アジアおよび東南アジアの両地域が、もっともダイナミックな変化を受けた太平洋戦争の時期と、終戦直後に限定した。共生型社会を構築するうえで、その原点ともなる当該時期の検討は不可欠だと位置づけたからである。

2. 研究の目的

共同研究期間は3年間にすぎないため、東アジアと東南アジアにおける在外日本人、華僑・華人、金門島人、在外コリアンのエスニック・コミュニティに限定して調査研究を進めることとした。とくに、金門島人を華僑・華人から切り離して独立に論じる理由は、彼らのアイデンティティが、「大陸中国人」や「台湾人」意識とは大幅に異なる特殊な意識に根ざしているためである。

具体的な目的は、おもに以下の3点とした。
○戦中、戦後の各地域におけるエスニック・コミュニティの自律性、権力への依存度の比較（とくにエスニック・グループからの視点を中心にして）

○エスニック・メディアの生産・流通・販売ルートの特定による地域の相関性（エスニック・メディアの流通、頒布ルートの確定を含む）

○メディア分析を通じた、エスニック・グループ間の状況認識の類似点/相違点

（在外日本人、華僑・華人、金門島人、在外コリアンそれぞれの比較）

3. 研究の方法

研究目的に沿って、1)総括班・在外日本人研究担当、2)華僑・華人担当、3)金門島人担当、4)在外コリアン担当の4つのグループを立ち上げた。各グループは、相互協力のもと、国内（とくに東京、沖縄、関西）所蔵のエスニック・メディアを調査するとともに、関係者へのインタビューを実施することに努めた。海外では、ソウル、台北、金門島において、計量学的書誌調査を実施し、現地で関係者に対するインタビューを実施するほか、ラウンドテーブルや座談会を開催するという方法をとった。

4. 研究成果

(1) 国外における研究発表：エスニック・メディアの生産・流通・販売ルートの特定による地域間の相関関係、戦後の時代状況を明らかにするために、2010年度に台北・輔仁大学で「文化冷戦的時代—美国的資訊戦略與亞洲的伝媒発展」国際学術論壇、香港・浸会大学でPublic Lectureを実施し、香港中文大学日本学系成立20周年記念国際学術研討会で成果を報告した。

また、戦前戦後の連続性を実証する研究として、2012年度に韓国で『문화냉전과 아시아: 냉전 연구를 탈중심화하기 (文化冷戦とアジア—脱中心化する冷戦研究)』、台湾で『美国在亞洲的文化冷戦』を刊行した。また、国内で刊行した『二〇世紀満洲歴史事典』にも、こうした成果の一部を盛り込んでいる。

(2) 国内における研究成果の公表：エスニック・コミュニティを取り巻く社会や時代の実態分析を進めるとともに、それを規定する法や政治制度の問題の重要性を再認識した。その成果は、2011年度に『近代アジアの自画像と他者—地域社会と「外国人」問題』(京都大学学術出版会を刊行した。この点は、2010年度には、国立金門大学のメンバーと神戸の金門島出身華僑を招いて合同開催した座談会「金門島研究の現在—僑郷・軍事・兩岸」を踏まえた論点だった。

(3) 資料調査による新資料の発掘：戦中、戦後の各地域におけるエスニック・コミュニティの自律性、権力への依存度を地域間比較する資料の収集に努めた。なかでも、2011年には米国公文書館で、雑誌『民

主朝鮮』やブックレット『正しい路線』の検閲箇所を確認し、米国議会図書館では終戦前後に米国が実施した朝鮮半島向けの朝鮮語ラジオ音声資料について調査できたことは収穫だった。また、同年度には、国立金門大学の江柏煒教授の協力を得て、世界中から収集されつつある金門島出身者の族譜および彼らのコミュニティ・メディアの調査をおこなった。さらに、神戸華僑の『蔡宗傑コレクション』の目録を刊行した。

(4) ヒアリング調査の実施：戦前、戦後の世論の変化を明らかにするために、2010年度は中国帰還者のヒアリング調査に着手し、2011年度は金門島の王家、薛家の村でフィールド調査を実施し、2012年度はこれらと比較するため、2012年度には沖縄、石垣島での調査をおこなった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計11件)

- ① 貴志俊彦、「朝日新聞富士倉庫資料」與中日戦争照片審査問題、在日本尋找中国—現代性及身份認同的中日互同 (吳偉明編、香港中文大学出版社)、査読有、2013、223-244
<http://www.academia.edu/3469803/>
- ② 小林聡明、GHQ 占領期日本における朝鮮人メディアの世界—機関紙と雑誌に関する書誌的分析、戦後日本と中国・朝鮮—プランゲ文庫を一つの手がかりとして (大里浩秋編、研文出版)、査読無、2013、41-82
- ③ 北村由美、Chinese in the Linguistic Landscape of Jakarta: Language Use and Signs of Change、*Words in Motion: Language and Discourses in Post-New Order Indonesia* (Keith Foulcher et al. eds., National University of Singapore Press)、査読有、2012、212-233
- ④ 貴志俊彦、東アジアにおける「流行歌」の創出—クロスオーバーするレコードと音楽人、岩波講座東アジア近現代通史 (和田春樹他編、岩波書店)、査読有、別巻、2011、313-336
- ⑤ 陳來幸、貴志俊彦、川島真、金門島研究の魅力と課題、地域研究、査読有、Vol. 11 No. 1、2011、20-42
- ⑥ 小林聡明、朝鮮人の移動をめぐる政治学—戦後米軍占領下の日本と南朝鮮、近代アジアの自画像と他者 (貴志俊彦編著、京都大学学術出版会)、査読有、2011、107-130
- ⑦ 陳來幸、在日台湾人アイデンティティの脱日本化—戦後神戸・大阪における華僑社会変容の諸契機、近代アジアの自画像と他者 (貴志俊彦編著、京都大学学術出版会)、査

読有、2011、83-105

- ⑧ 貴志俊彦、自画像と他者への視線—歴史学におけるトランス・ナショナリティ研究の提起、近代アジアの自画像と他者 (貴志俊彦編著、京都大学学術出版会)、査読有、2011、1-11
- ⑨ 佐藤卓己、なぜ八月一五日が、終戦日、なのか—メディアによる記憶の創出、歴史群像シリーズ 決定版太平洋戦争 (学研)、9、査読無、2010、128-134
- ⑩ 陳來幸、戦後日本における華僑社会の再建と構造変化—台湾人の台頭と錯綜する東アジアの政治的帰属意識、歴史の桎梏を越えて：20世紀日中関係の新しい見方 (小林道彦、他、千倉書房)、査読有、2010、189-210
- ⑪ 陳來幸、神戸の戦後華僑史再構築に向けて：GHQ資料・プランゲ文庫・陳徳勝コレクション・中央研究院档案馆文書の利用、開港都市研究、査読無、第5号、2010、65-73

[学会発表] (計14件)

- ① 貴志俊彦、圍繞東亜図像画資料論戦前的審査系統和關係法、国立東華大学歴史学系学術專題演講、2013年3月15日、台湾・国立東華大学文一館
- ② 貴志俊彦、情報資源としての絵はがきとその利用、シンポジウム「近代アジアをめぐる絵はがきメディア—帝国・表象・ネットワーク」、2012年11月10日、国際日本文化研究センター・京都大学地域研究統合情報センター・財団法人東洋文庫
- ③ 小林聡明、アメリカ占領空間における越境の政治学—日本列島/朝鮮半島南部を移動する朝鮮人：1945-1948年、日韓ワークショップ「プランゲ文庫と東アジア—日本敗戦と冷戦形成期の東アジアの歴史体験」神奈川大学・韓日民族問題学会、2012年10月13日、ソウル：淑明女子大学
- ④ 小林聡明、『守礼の光』を発行していたのは誰だったのか—米第7心理戦部隊と情報工作拠点としての沖縄、公開ワークショップ「図画像資料研究の新しい可能性を求めて」、東洋文庫超域アジア研究部門国際・文化グループ「図画像資料」班、2012年7月8日、東洋文庫2F講演室
- ⑤ 北村由美、ポスト・スハルト期インドネシアの華人出版物にみられる自己イメージ、日本華僑華人学会、2011年11月13日、南山大学
- ⑥ 陳來幸、在日台湾人と戦後日本における華僑社会の左傾化現象、「台湾人的海外活動」国際学術研討会、2011年8月26日、台北・中央研究院台湾史研究所 (招聘講演)
- ⑦ 陳來幸、The Reconstitution of the Overseas Chinese Community in Postwar Japan、日本研究学会、2011年7月5日、メルボルン (招聘講演)

- ⑧陳來幸、1950年代冷戦影響下の横浜中華学校と東京中華学校、戴国輝先生冥誕80周年国際学術研討会、2011年4月16日、台北・国家図書館国際会議庁（招待講演）
- ⑨川島真、僑報『顕影』再読-1920-40年代の珠山と移民先の関係、科研ワークショップ「金門島研究の現在-僑郷・軍事・兩岸」、2011年2月12日、神戸市・神戸中華総商會会議室
- ⑩小林聡明、在日朝鮮人メディアと米占領軍検閲、2010年12月2日、韓国・ソウル大学日本研究所（招聘講演）
- ⑪小林聡明、越境する思想とアメリカの介入-米軍政期南朝鮮検閲された私信は、何を語ったのか、韓国日本思想史学会、2010年11月27日、韓国・成均館大学
- ⑫貴志俊彦、東亞・東南亞媒體文化中的太平洋戦争及戦後の記憶與記、浸会大学Public Lecture、2010年7月5日、香港・浸会大学（招待講演）
- ⑬小林聡明、朝鮮戦争期における国連軍の捕虜教育プログラム、「文化冷戦的時代-美国的資訊戰略與亞洲の伝媒發展」国際學術論壇、2010年5月6日、台湾・輔仁大学文学院大衆伝播学研究所（招待講演）
- ⑭貴志俊彦、文化冷戦期美国的宣伝活動以及其对亞洲的影響、「文化冷戦的時代-美国的資訊戰略與亞洲の伝媒發展」国際學術論壇、2010年5月6日、台湾・輔仁大学文学院大衆伝播学研究所（招待講演）

〔図書〕（計5件）

- ①陳來幸、蔡宗傑コレクション（図書・文書）、神戸華僑歴史博物館、2013、45
- ②貴志俊彦、他、Seoul: 소명출판, 문화냉전과 아시아: 냉전 연구를 탈중심화하기（文化冷戦とアジア-脱中心化する冷戦研究）、2012、336頁
- ③貴志俊彦、他、吉川弘文館、二〇世紀滿洲歴史事典、2012、840
貴志俊彦、他、台北・稻郷出版社、美国在亞洲的文化冷戦、2012、291
- ④貴志俊彦、他、京都大学學術出版會、近代アジアの自画像と他者-地域社会と「外国人」問題、2010、400
- ⑤貴志俊彦、吉川弘文館、滿洲国のビジュアル・メディア-ポスター・絵はがき・切手、2010、248

〔産業財産権〕

○出願状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：

出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

貴志俊彦 (KISHI TOSHIHIKO)
京都大学・地域研究統合情報センター
・教授
研究者番号：10259567

(2) 研究分担者

川島 真 (KAWASHIMA SHIN)
東京大学・総合文化研究科・准教授
研究者番号：90301861
陳 來幸 (CHEN LAIXING)
兵庫県立大学・経済学部・教授
研究者番号：00227357

(3) 連携研究者

佐藤卓己 (SATO TAKUMI)
京都大学・教育学研究科・准教授
研究者番号：80211944
北村由美 (KITAMURA YUMI)
京都大学・東南アジア研究所・助教
研究者番号：70335214
小林聡明 (KOBAYASHI SOMEI)
東京大学・総合文化研究科・学術研究員
研究者番号：00514499